

5 つまづき解消ナビEBPM逆引きヒント集

「ほしいデータが見つからない」「解くべき問いが立てられない」「分析手法に詳しくない」「庁内での調整が進まない」など、データ利活用におけるお悩みは、多くの自治体で共通する悩みがいくつかあります。

本章では、EBPMの実践過程で、自治体の皆さまが直面しやすい問題を整理し、特にぶつかりやすい“壁”から逆引きをする形で、解決の方向性や対処方法についてご提案します。

「次の一歩を進めるためには、どのようなことをしたらいいか？」
皆さまの困りごとに答える実践的なヒント集としてご活用ください。

EBPMは、準備を完璧に整えてから始めるものではなく、まずは小さく始めてみて、つまづきを繰り返しながら改善を重ねていきます。このプロセスそのものがEBPMの実践といえます。本章が、皆さまがEBPMの実践で立ち止まってしまったときの道しるべとなれば幸いです。



5 つまづき解消ナビEBPM逆引きヒント集

【壁1】ほしいデータが見つからない／収集できない

オープンデータの活用（e-Stat・RESAS等）

分析計画を立て、いざデータ収集を進めようとする、「必要なデータがない」という壁に直面することがあります。

一部のデータは、公開された既存の統計データを活用することで、現状把握を行うことが可能です。以下に、その基本的な手順を紹介します。

ヒント1

取得したいデータを分解・整理する



まずは、必要なデータがどのようなものなのかを整理します。必要なデータを明らかにするためには、分析の目的を明確にし、具体的なデータを「指標」として言語化することで、統計データの中から活用可能なものを探しやすくすることができます。以下のSTEPを参考に実行してみましょう。

STEP 01

目的の整理

データ分析の目的、知りたいことを「ひとこと」に置き換える

例：

子育てサポートサービスの見直しを測るため、対象者の利用課題を探る

STEP 02

必要データの言語化

測定したい状態を具体的な指標に落とし込み、指標を把握するために必要なデータ項目を整理する

利用者数、待機時間、転出入、
税込 など

STEP 03

データの粒度決定

分析の目的に応じて、どの程度の細かさ（粒度）でデータを扱うかを検討する

- ・ 時間(年月/日)
- ・ 地域(市町村/町丁字/メッシュ)
- ・ 属性(年齢・世帯・産業等)

STEP 04

代替データの検討

想定するデータが手に入らない場合は、近い意味を持つデータで代替する

理想とするデータが「子育て世代の認知率」だった場合、代替データは「問い合わせ件数」「説明会参加数」「ホームページ閲覧数」などとなる

5 つまづき解消ナビEBPM逆引きヒント集

【壁1】ほしいデータが見つからない／収集できない

オープンデータの活用（e-Stat・RESAS等）

ヒント2 | 公開された統計データの活用可否を確認する



公開されている統計データを利用する場合は、そのデータが分析の目的に適しているかを確認する必要があります。データの定義や集計方法によっては、意図した分析ができない場合もあるためです。以下は、データを利用する際に確認しておきたい主なチェックポイントです。

確認項目	内容
定義	調査対象（母集団）、調査方法、集計単位が分析目的とあっているかを確認する
更新頻度	対象データは最新年次のものであるか、発表から時間が経過しすぎていないかなどを確認する
比較可能性	過去の同一調査のデータなどと比較する際に、途中で収集条件などに変更が起きていないかなどを確認する。特に、市区町村の合併等で境界変更が行われている場合は注意する
誤差・欠損	一部の対象者への調査において、標本数に応じた誤差を考慮しているかのほか、規模の小さな地域における結果の偏りを、解釈に考慮しているかどうか

5 つまずき解消ナビEBPM逆引きヒント集

【壁1】ほしいデータが見つからない／収集できない

オープンデータの活用（e-Stat・RESAS等）

ヒント3 公開された統計データを検索する



e-StatやRESASなどのウェブサイトで行政が公開するオープンデータは、地域の現状を客観的に把握するための重要な情報源です。これらのデータを活用することで、新たな調査を行わなくても、一定の分析を進めることができます。

e-Stat（政府統計の総合窓口）

各省庁が公表している統計データ（国勢調査、住民基本台帳、経済センサス、就業基本調査等）を一括で検索・取得・可視化できるサイトです。 E-Stat：<https://www.e-stat.go.jp/>



RESAS（地域経済分析システム）

産業構造、人口動態、観光、企業、消費などのデータを可視化し、地域の特徴を把握することができるサイトです。 RESAS：<https://resas.go.jp/>



5 つまづき解消ナビEBPM逆引きヒント集

【壁1】ほしいデータが見つからない／収集できない

オープンデータの活用（e-Stat・RESAS等）

ヒント3 公開された統計データを検索する



自治体・都道府県オープンデータ

各自治体が独自に公開しているデータです。人口動態、行政サービス利用実績、生活環境・安全情報、産業・経済状況など、地域の実態を把握するための情報が公開されています。

データの扱いについて

取得したデータを分析に活用する際は、それらのデータをどこから取得し、どのように加工したかや、取得時の条件などを分析中や結果のとりまとめ作業において振り返ることがあります。手戻りを防ぐためにも、必ず以下のような項目を記録しておきましょう。

出典

取得元のデータがどの機関から公開されたデータなのか
例：府省庁名、自治体名、統計名称、統計表名など

取得日

データをダウンロードまたは閲覧した年月日
統計データは、使用後に更新されることが度々起こるため、取得した時点を記録します。

加工手順

取得後に、データをどのように加工したのかについて記録をします。
例：複数の項目の数値を合算した、元のデータから全体に対する割合を算出した、特定の条件で一部のデータのみを抽出した等

前提条件

データを解釈する際の条件を記録します。
例：単位、用語の定義、集計時の注意点など

5 つまづき解消ナビEBPM逆引きヒント集

【壁1】ほしいデータが見つからない／収集できない

その他のよくあるつまづきと対処方法

データ収集後、分析を実行しようとする、思うようにデータが使えないことがあります。ここでは、自治体のEBPMの取組でよく見られるつまづきと、その対処方法を紹介いたします。

地域単位が合わない

統計データは、市町村単位、地区単位、メッシュ（格子）単位など、さまざまな地域区分で作成されています。そのため、分析したい地域単位とオープンデータの地域単位が一致しない場合があります。このような場合は、地域区分をそろえるように単位を変換したり、複数の地域をまとめて再集計する方法があります。

目的に対応するデータがない

分析したい内容に直接対応するデータが存在しないこともあります。そのような場合は、目的に近い内容を示す別の指標（代理指標）を使って分析します。例えば、地域の交流人口を直接示すデータがない場合には、宿泊者数や観光入込客数などを参考にして、代替データとして交流状況を把握する方法があります。

5 つまづき解消ナビEBPM逆引きヒント集

【壁2】課題が定まらない

検証可能な問いに変換する

データ活用において、課題の整理や問いの設定を十分に行わないまま、データ分析の実行や施策の検討に進むと、実態から乖離した施策を策定してしまう恐れがあります。以下にて、課題を整理し、検証可能な問いを立てるための基本的なプロセスを例を交えて紹介します。

×よくある落とし穴

- ・いきなり「デマンド交通を導入すべきかどうか」と手段の検討から入る
- ・住民アンケート意見や感想だけを、課題の根拠とする
- ・市または県全体の平均値で議論を進め、地域ごとの特性を考慮せず議論してしまう
- ・単年度データあるいは数年間のデータのみで判断してしまう

Step01 現状把握・仮説の整理

課題が定まらない場合は、次の3点を整理します。

① 事実の確認（何が起きているのか）

まず、実際に起きている事実をデータで定量的に把握します。

- ・乗車人数は何%減少しているのか
- ・どの路線・どの時間帯で減っているのか
- ・収支率はどう推移しているか
- ・高齢者、学生など属性別の利用状況はどうか



② 影響（何が問題なのか）

その事象が、行政や住民生活にどのような影響を与えているかを整理します。

- ・財政負担はどの程度なのか
- ・移動困難者の増加につながっていないか
- ・通学通勤、買い物・通院への影響はないか



③ 仮説（なぜ起きているのか）

事象が起きている原因として考えられる要因を、仮説として整理します。

- ・免許返納率が上がっていることが原因ではないか
- ・運行ダイヤが生活実態に合っていないのではないか
- ・商業施設からバス停までの距離が遠いのではないか
- ・運賃設定に住民の不満があるのではないか



5 つまづき解消ナビEBPM逆引きヒント集

【壁2】課題が定まらない

検証可能な問いに変換する

課題を設定するための代表的なフレームワーク

課題を検討する際には、「フレームワーク（考え方の型）」を活用すると、状況や要因を整理しやすくなります。フレームワークを使うことで、何が起きているのか、なぜ起きているのか、どのような対応が考えられるのかを順序立てて考えることができます。ここでは、EBPMの検討でよく用いられる代表的なフレームワークを紹介します。

	目的	例
空雨傘	事実を把握し、そこから解釈できることの整理と、それぞれへの対応策を検討する	空：市内の北部地区の路線バス利用者が5年間で30%減少した 雨：高齢化により運転免許返納者が増えているはずだが、利用者が減ったということは、高齢者が利用したい時間帯の運行がないのではないか 傘：高齢者の利用時間帯（通院時間帯など）に合わせたダイヤ再編を検討する
ロジックツリー	解決すべき課題から考えられる施策までの関係性を要因別に分解する	例：バス利用者が減少している ・人口減少の影響？ ・マイカー利用増加？ ・ダイヤの不便さ？ ・運賃の高さ？ ・目的地まで直行できない？
5W1H	Who（誰が） Where（どこで） When（いつ） What（何が） Why（なぜ） How much（どの程度）	誰が、どこで、いつ、何に困っているのかを具体化する

5 つまづき解消ナビEBPM逆引きヒント集

【壁2】課題が定まらない

Step02 問いを立てる

現状や仮説を整理した後は、データで検証できる具体的な問いを設定します。問いが曖昧なままであると、どのデータを確認すればよいのかが分かりにくく、つまづく原因となります。次のように、問いを具体化することで、どのデータを確認すればよいのかが明確になり、分析や施策の検討を進めやすくなります。

あいまいな問い	データで検証できる問い
なぜ利用者が減っているのか	65歳以上の利用者減少率は他の世代と比較して高いか
バスが不便なのではないか	通院目的で利用する高齢者の乗車時間帯は現行ダイヤと一致しているか
赤字を減らしたい	収支率が特に低い区間はどこか

Step03 検証可能な問いに言語化できているかを確認する

設定した問いがデータで検証できる内容になっているかを確認します。次の視点でチェックすると、問いが分析に適しているかどうかを確認することができます。

チェックポイント

- 誰にとっての課題なのかが明確であるかどうか
- 期間・場所・対象が特定されているか
- 施策の見直しや意思決定につながる内容になっているか

具体例：「高齢者の移動が不便」という声がある場合

- ① 現象確認： 75歳以上の外出頻度はどの程度か
- ② 対象限定： 単身高齢者に限定するとどうか
- ③ 仮説設定： バス停までの距離が影響しているのではないか
- ④ 検証可能な問いへ： 「バス停から500m以上離れた高齢者の外出頻度は低いのか」

→このようにEBPMでは、対象や期間、指標などを具体化し、データで確認できる問いに置き換えることが重要です。

課題が定まらない場合は、事象・影響・仮説を整理したうえで、データで検証できる問いを設定することが大切です。問いを具体化し、その内容が検証可能かを確認することで、EBPMの分析を進めるための準備が整います。



5 つまづき解消ナビEBPM逆引きヒント集

【壁3】分析が難しそう

「見える化」から始める（Excel・無料ツールを活用する）

データ分析という言葉を聞くと、「難しそうだ」と感じる場合があります。しかし、EBPMでは最初から高度な分析を行う必要はありません。まずはデータを整理し、グラフなどで可視化することで、現状の傾向や特徴を把握してみましょう。ここでは、Excelなど身近なツールを用いた基本的な進め方を紹介します。

Excelの標準機能を活用した集計・可視化

まずは基本的な統計値を確認します。

基本集計

- 件数
- 中央値
- 合計
- 最大値・最小値
- 平均
- 欠損数

可能であれば、「単位当たり（人口1万人当たり、職員1人当たりなど）」も併せて確認します。

営業1課	
平均	15.9375
中央値	16
範囲	10
最小	10
最大	20
合計	255
データの個数	16

ピボットテーブル

ピボットテーブルを活用すると、データをさまざまな切り口で簡単に集計することができます。

- <例>
- 行：地域／部署／施設／月
 - 列：年度／区分
 - 値：件数、平均など

スライサーを使用すると、年代や地区、事業種別などの条件を切り替えて確認することができます。

※スライサーとは...ピボットテーブルのデータをボタン操作で簡単に絞り込むことができる機能です。

グラフ

データの特徴に応じて、次のようなグラフを使い分けます。

- 折れ線グラフ：時系列の推移を確認する際に有効です。
- 棒グラフ：地区別、施設別、年代別などの比較に適しています。
- 円グラフ：割合の比較（予算配分など）に使用します。
- 箱ひげ図：ばらつきや外れ値の確認に使用します。
- 散布図：2つの指標の関係性（相関の有無）を確認する際に使用します。

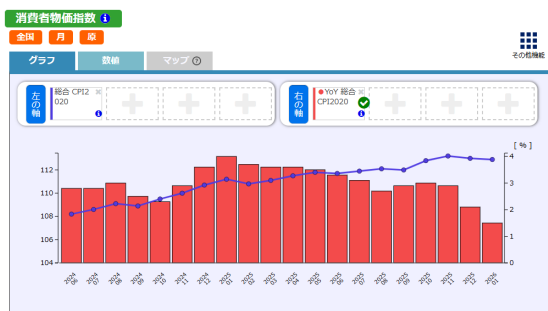
5 つまづき解消ナビEBPM逆引きヒント集

【壁3】 分析が難しそう

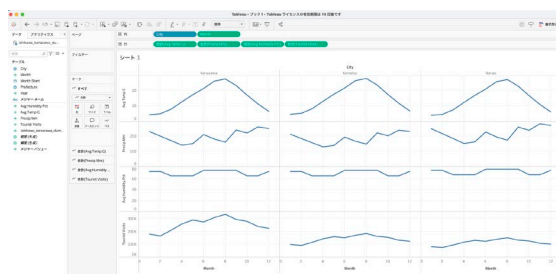
可視化に活用できる無料ツール

Excel以外にも、無料で利用できる可視化ツールがあります。

- **地理情報システム（GIS：QGIS等）**
人口、施設、行政データなどを地図上で可視化し、地域ごとの状況や分布、偏りなどを把握することができます。
- **データ可視化ツール（BIツール：Looker Studio、Tableau等）**
年度や地区などの条件を切り替えながらデータを可視化し、状況を比較することができます。
- **公的データプラットフォーム（e-Stat、RESAS等）**
人口や産業などの統計データを活用し、地域の特徴や他の地域との違いを把握することができます。



e-Stat



Tableau

可視化後の確認ポイント

可視化後は、次のような点を確認します。

- 状況把握：増減、偏り、ばらつき、外れ値の有無を確認します。
- 比較：時期（前後）、地域、属性、施策対象・非対象などの違いを比較します。
- 変化点の確認：いつから変化が起きているのか、季節による変動があるのかを確認します。
- 仮説の整理：考えられる要因を仮説として整理し、2～3個程度に絞ります。

5 つまづき解消ナビEBPM逆引きヒント集

【壁3】 分析が難しそう

Excelの集計・可視化方法

ここでは、Excelを用いてデータを集計し、グラフとして可視化する基本的な方法を紹介します。Excelは多くの自治体で日常的に使用されているツールであり、特別な分析ソフトを用いなくても、基本的な集計や傾向の把握を行うことができます。


以下では、ピボットテーブルを用いたクロス集計の作成方法と、グラフの作成方法を例として示します。実際の操作画面を参考にしながら、基本的な可視化の方法を確認してみてください。

■クロス集計の方法

STEP 01

集計するデータをすべて選択し、Excelの画面上部のバーから「挿入」を選択し、「ピボットテーブル」を選択する。

※Microsoft Excel2013 以降のバージョンを推奨。



ID	年代	居住地区	バス利用頻度	満足度
1	20代	中心市街地	週5日以上	満足
2	20代	中心市街地	週1-2日	普通
3	30代	郊外	月1-2日	不満
4	40代	郊外	週1-2日	普通
5	50代	中心市街地	週5日以上	満足

STEP 02

クリックするとポップアップ画面が出てくるので、データの選択範囲を確認し「OK」を選択する。

STEP 03

画面右に出てくる画面で、集計するデータを選択し、ドラッグアンドドロップを使用して、適当な形に配置する。



フィールド名	フィールドの検索
<input type="checkbox"/> ID	
<input type="checkbox"/> 年代	
<input type="checkbox"/> 居住地区	
<input checked="" type="checkbox"/> バス利用頻度	
<input checked="" type="checkbox"/> 満足度	

STEP 04

クロス集計表が作成された。

行ラベル	個数 / 満足度
ほとんど使わない	2
月1-2日	5
週1-2日	9
週5日以上	4
総計	20

5 つまづき解消ナビEBPM逆引きヒント集

【壁3】 分析が難しそう

Excelの集計・可視化方法

■グラフの作成

STEP 01

バーから「挿入」を選択し、中央部にあるグラフのアイコンから、作成したいグラフのアイコンをクリックし、選択する。



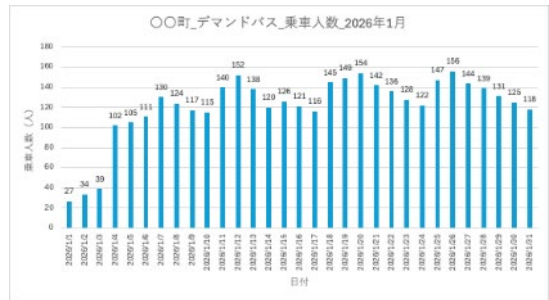
STEP 02

「グラフのデザイン」バーから、「グラフデータの選択」を選び、可視化するデータの範囲を選択する。



STEP 03

グラフが作成された。



このように、Excelの基本的な機能を用いるだけでも、利用状況の推移や変化の傾向を視覚的に確認することができます。グラフとして可視化することで、数値だけでは把握しにくい増減の傾向や変化のタイミングを直感的に理解することができます。

分析という言葉を知くと難しく感じるがありますが、**EBPMでは必ずしも高度な統計分析から始める必要はありません。**まずはデータを整理し、Excelなどの身近なツールで可視化することで、現状の傾向や課題の手がかりを把握することができます。こうした基本的な可視化と集計を通じて状況を理解することが、次の分析や政策検討につながります。まずは「見える化」から始め、データを用いた課題把握の第一歩を踏み出しましょう。



5 つまづき解消ナビEBPM逆引きヒント集

【壁4】 庁内調整が進まない

合意形成の工夫

EBPMの取組を進める際、「分析そのもの」よりも庁内での合意形成に難しさを感じるケースは少なくありません。分析によって課題や対応策が見えても、それを施策として実行するためには、上長や関係部署との調整、住民への説明など、さまざまな関係者の理解と合意が必要になります。そのため、多くの自治体において庁内での合意形成が課題となることがあります。ここでは、EBPMを進めるうえでの庁内調整の考え方と、合意形成を進めるための工夫を紹介します。

01 なぜ庁内調整は難しくなるのか

庁内調整が進まない例として、次のような状況が挙げられます。

- 従来の施策を見直す必要が生じる
- 財政部門との調整が必要になる
- 首長や上長の判断が求められる
- 住民要望とデータの結果が一致しない

EBPMでは、分析結果そのものだけでなく、それをどのように共有し説明するかという合意形成のプロセスも重要です。

02 上長・関係部署への説明のポイント

庁内で合意形成を進める際には、エビデンス（根拠）に基づいて説明することが重要です。上長への説明、関係部署との調整、住民への説明などさまざまな場面では、次のような構造で整理して説明することが有効です。

- ① 現状（データで確認できる事実）
- ② 課題（何が問題なのか）
- ③ 要因（なぜ起きているのかという仮説）
- ④ 対応案（どのような施策が考えられるか）



このように整理することで、議論を「意見の対立」ではなく、事実に基づく検討へと進めることができます。また、合意形成の場面では、統計的な説明だけではなく、図表やグラフを用いて視覚的に理解できる形で提示することも有効です。

専門的な知識を持たない関係者がいる場合、データという言葉だけで難しい印象を持たれることもあります。これは分析結果の説明だけでなく、施策の導入や予算の検討を行う場面でも同様です。

5 つまづき解消ナビEBPM逆引きヒント集

【壁4】 庁内調整が進まない

03 合意形成を進めるための工夫

庁内調整を進める際には、次のような工夫も有効です。

小さな取り組みからデータ活用を取り入れる

EBPMの取組を庁内で進める際、最初から大きな政策課題を対象にすると、関係部署が多くなり調整が難しくなることがあります。そのため、まずは一つの事業や限定的なテーマなど、取り組みやすい範囲から始めることが有効です。

小さな取組であっても、データを整理し分析を行い、その結果を政策検討に活用することで、庁内にEBPMの実践事例を生み出すことができます。こうした取組を積み重ねることで、組織内での理解や協力を広げるきっかけになります。

「データで確認する」という姿勢を共有する

公共交通に関する議論では、担当者の経験や住民からの声、現場での感覚が判断材料として利用されることが多くあります。一方で、立場や経験の違いによって問題の捉え方が異なり、議論の前提が揃わないこともあります。

このような場合には、まず「データで現状を確認する」という姿勢を関係者で共有することが重要です。例えば、利用者数の推移や時間帯別の乗車状況、地域ごとの人口構成などの基本的な統計情報を整理し、現状を客観的に把握することから始めます。

<基礎集計の具体例>

- 路線別乗車人数
- 時間帯別利用者数
- 年齢層別利用割合
- 収支率
- 人口構成

このような基礎的な集計を共有することで、個人の意見や印象ではなく、共通の事実を元に議論を進めることができます。

EBPMでは、経験や感覚を出発点としながら、データによって状況を確認し課題を整理します。まずは「基本的な統計情報を確認する」という共通の視点を持つことが、庁内での議論を進める第一歩となります。

5 つまづき解消ナビEBPM逆引きヒント集

【壁4】 庁内調整が進まない

03 合意形成を進めるための工夫

庁内調整を進める際には、次のような工夫も有効です。

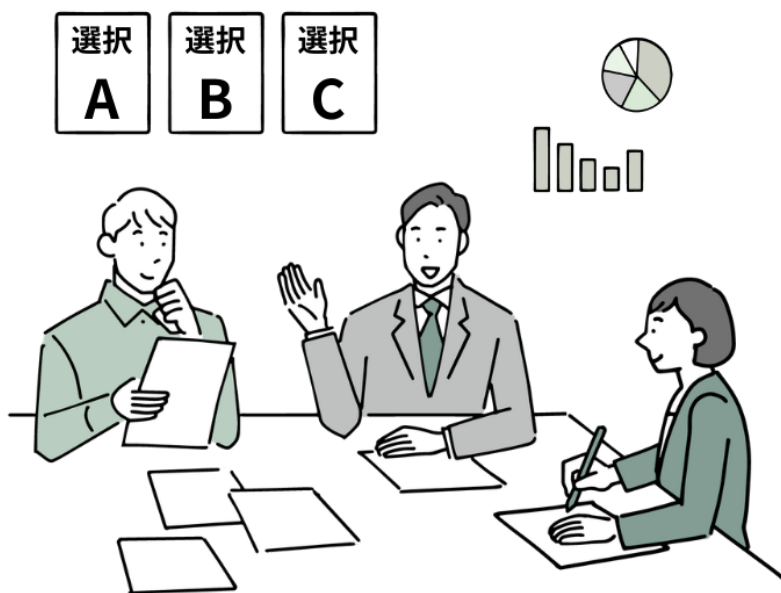
複数の選択肢を提示する

庁内で施策を検討する際、一つの案だけを提示すると、その案の是非をめぐる議論になりやすく、意見が対立した場合に議論が進みにくくなることがあります。

そのため、施策を検討する際には複数の選択肢を整理して提示することが有効です。

例えば、現状維持、ダイヤの見直し、路線の再編、デマンド交通の導入など、考えられる対応策をいくつか示し、それぞれのメリットや課題、想定される影響を整理します。

このように複数の選択肢を提示することで、「どの案が最も適切か」という視点で議論を進めることができ、建設的な検討につながります。



5 つまづき解消ナビEBPM逆引きヒント集

【壁5】 継続できない

引き継ぎの設計

EBPMの取組では、分析を実施することだけでなく、その取組を継続していくことが重要です。しかし自治体では、担当者の異動や兼務、業務量の増加などにより、取組が途中で止まってしまふことがあります。その結果、これまでの分析の経緯や判断の根拠が分からなくなり、同じ検討をやり直さなければならないケースも少なくありません。

このような状況を防ぐためには、担当者個人の知識や経験に依存するのではなく、業務の内容や手順を組織として引き継げる形で整理しておくことが重要です。本節では、EBPMを継続するための「引き継ぎの設計」について紹介します。

01 EBPMに関する業務の継続

EBPMの取組が継続できなくなる主な要因として、次のようなものが挙げられます。

- 担当者の異動や兼務
- 業務の繁忙などによる作業の途切れ
- これまでの判断の根拠や分析の過程が再現できなくなる

引き継ぎの目的は、単に資料を渡すことではありません。「同じ手順で再現できる状態」を整えることが重要です。

02 引き継ぎに必要な情報

EBPMの取組を継続するためには、次のような情報を整理して引き継ぐことが重要です。

01 | 目的と意思決定ポイント

EBPMの取組を継続するためには、次のような情報を整理して引き継ぐことが重要です。

- 何のための取り組みか（施策改善／予算要求／説明責任など）
- 次にいつ、誰が、何を判断するのか（年度更新、見直し時期など）

5 つまづき解消ナビEBPM逆引きヒント集

【壁5】 継続できない

引き継ぎの設計

02 | 問い・仮説・評価の観点

- 設定した問いや検証したい内容
- 想定している因果関係や簡単なロジック
- 成果指標（アウトカム）と管理指標（アウトプット）の定義

03 | データ台帳（最も重要）

- データ名 データの正式名称
- 出典 どこから取得したデータか：
府省庁名、自治体名、統計名称、統計表名など
- 取得方法 どのように取得したか：
ダウンロード方法、システム抽出方法、手入力など
- 更新頻度 どの頻度で更新されるデータか：
年1回、月1回など
- 対象期間 どの期間のデータか：
例 2019年〇月〇日～2023年〇月〇日など
- データの粒度 どの単位で記録されているか：
日・月・年度、地区単位など
- 担当課・連絡先 データの管理担当部署や問い合わせ先

併せて、次のようなデータ加工の内容も記録しておきます。

- 欠損値の処理 データが記録されていない部分をどのように扱ったか：
削除、平均値で補完など
- 除外条件 特定のデータを集計対象から除外した場合の条件：
例 外れ値、特定年度など
- 単位当たりの
換算方法 人口1万人当たり、1施設当たりなど、
比較のために行った計算方法

5 つまづき解消ナビEBPM逆引きヒント集

【壁5】 継続できない

引き継ぎの設計

04 | 分析・集計の手順（再現手順）

- Excelのピボット設定 どのように集計したか：行・列・値の設定など
- 抽出条件 絞り込んだ条件：特定の期間・地域・属性など
- 使用した計算式 Excel関数や計算方法
- 使用ファイル一式 元データ、加工データ、分析用ファイルなど
- 作業ログ いつ、どのような作業や修正を行ったことの記録

分析の手順を整理して残しておくことで、次の担当者が同じ手順で作業を行い、同じ結果を再現できるようになります。

05 | 結果の要点と解釈の注意点

- 主要なグラフや表 分析結果を示す代表的な図表
- 読み取りのポイント 分析結果からどのような傾向が確認できるか
- 分析結果の限界 データの不足や前提条件など、解釈する際に注意すべき点

また、解釈に相違があり得る点や、追加で検証すべき事項についても記録しておくこと、次の検討につながります。

5 つまづき解消ナビEBPM逆引きヒント集

【壁5】 継続できない

引き継ぎの設計

06 | 関係者・合意事項

- 庁内外の関係者 関係する部署や外部機関：
例 交通政策課、財政課、交通事業者、地域団体など
- 関係する会議体 検討や意思決定を行った会議：
例 庁内検討会議、公共交通会議、協議会など
- 合意した前提条件 議論の中で関係者が共通認識として確認した条件：
例 予算規模、対象地域、施策の目的など
- 未解決の論点 今後さらに検討が必要な課題や、意見が一致していない点
- 説明資料・議事録 会議で使用した資料や議論の記録

可能であれば、住民説明で使用した資料や問い合わせ対応の履歴なども整理しておきます。

